

「リゾートしらかみブナ」を只見線で走らせた 只見線子ども会議がJR東日本に署名を提出



▲集めた署名を提出した只見線子ども会議のメンバー

只見線子ども会議のメンバーは、12月26日に会津若松駅を訪問し、JR五能線を走る「リゾートしらかみブナ」の只見線での運行を要望する署名を藺田会津坂下駅長に手渡しました。

9月に初開催された只見線の利活用を考える只見線子ども会議で、「『リゾートしらかみブナ』を只見線でも走らせる」というアイデアが発表され、発表者の角田杏さんらが中心となり、実現に向けて集めた署名は3705人分になりました。

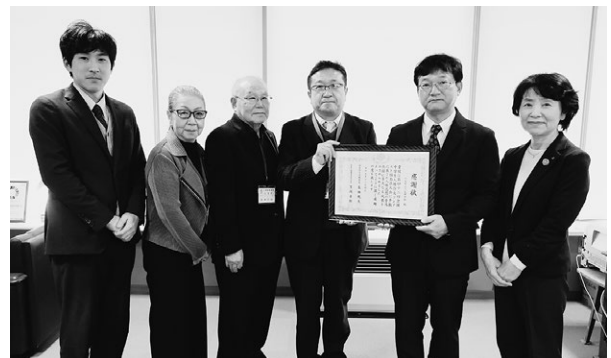
また、メンバーは県只見線管理事務所と国土交通省東北運輸局を訪問し、実現に向けた要望を提出しました。

人権問題に対する意識の高揚

只見中に福島地方法務局から感謝状の贈呈

只見中学校は、「第42回全国中学生人権作文コンテスト福島県大会」へ多数の参加(応募数)があったことが評価され、福島地方法務局長と福島県人権擁護委員連合会長の連名の感謝状が贈られました。

伝達は、12月26日に行われ、福島地方法務局若松支局長の鈴木氏は伊藤校長に感謝状を手渡し、「人権問題を子どものうちから意識付けすることは非常に大切なことです。引き続き、子どもたちが人権問題についての理解を深めるためにご協力お願いします」と話しました。



▲感謝状を手渡した鈴木支局長(右から3番目)

南郷トマト生産組合が報告に来庁

南郷トマト販売額が過去最高に



▲訪問された南郷トマト生産組合の皆さんと星代表理事専務

南郷トマトの今年度の販売額が過去最高額の12億2900万円となり、南郷トマト生産組合の高木組合長と新國副組合長、山内副組合長、JA会津よつばの星代表理事専務が、1月22日に渡部町長を表敬訪問しました。

今年度は夏の高温と少雨で厳しい生育環境でしたが、安定した生産体制や高単価を維持できたこと等から、昨年度の販売額10億9500万円を上回りました。

また、「8月6日」と「9月10日」が『南郷トマトの日』として、一般社団法人日本記念日協会の認定を受けたことを報告しました。

- ・「8月6日」 南郷トマトが地理的表示(GI)保護制度に登録された日
- ・「9月10日」 南郷トマトの「秋味」出荷時期、「食(9)いたいト(10)マト」の語呂合わせ

只見町の魅力を発信

高村帆香さんが「ただみスタンド」開設



▲お店を訪れた方に只見町をPRする高村さん

東北芸術工科大学企画構想学科4年の高村帆香さんが、全国各地で「ただみスタンド」を開設し只見町のPRを行いました。

「ただみスタンド」は、各地の立ち飲み屋に1日限定で町のお酒や食品などを提供する場を設け、高村さんがお客さんに町や只見線の説明を行い、只見町の自然や文化、食などの魅力を発信する取り組みです。

高村さんは、大学2年の時に、三石神社に関連する商品開発に携わるなど、これまでも町の魅力発信にご協力いただいております。昨年10月からは只見町ふるさと大使も務めています。

スキー場で新年を楽しむ

只見スキー場「正月歓迎イベント」開催

只見スキー場は、1月1日に正月歓迎イベントを開催しました。

リフト営業を行えるだけの積雪はなかったものの、イベントでは「雪中宝ひろい」が開かれ、イベントを楽しみにしていた親子ら、約30人が参加しました。

「雪中宝ひろい」では、賞品と引き換えられるくじが入ったケースを雪の中から探し出すもので、子どもたちはスタートの合図とともに雪の中に駆け出しました。

また、「おしるこの振る舞い」も行われ、参加者や来場者は身も心も温まる元旦を過ごしました。



▲雪中宝ひろいに参加する子どもたち

沖縄から只見町へ

昭和薬科大学付属高校 探究修学旅行で来町



▲迎いの車まで慎重に歩く、雪初体験の学生たち

沖縄県の昭和薬科大学付属高等学校は、探究修学旅行で只見町に2泊し、南会津地域の冬の農村生活やスキーなどウィンタースポーツを体験しました。

来町初日にバスから降りた生徒たちは、沖縄県では見ることの難しい辺り一面の雪景色に「すごい雪の量」、「雪の中に飛び込みたい」など只見町の景色に驚いていました。その後、町内各地区の民泊先に移動し、各家庭それぞれで、冬の過ごし方を体験しました。

郷土の味を伝える

食生活改善推進員会「ニシン漬け」を行う



▲漬け込み準備をする食生活改善推進員会の皆さん

只見町食生活改善推進員会は、1月11日に「ニシン漬け」の漬け込みを行いました。今回は約40キロのニシンを3時間かけて調理しました。

一説によると「ニシン漬け」は新鮮な魚を手入れにくい会津地域でも魚料理を食べられるように、保存性を高めるために作られたものと言われています。

今回漬け込んだ「ニシン漬け」は、2月10日から開催される「只見ふるさとの雪まつり」会場に並びます。

会場にお越しの際は、ぜひ「ニシン漬け」を味わってください。

エコバッグ作りで大学生と交流を深める

只見中学生が大学生に新聞紙エコバッグ作りを指導

町内の子どもたちの冬休み期間に合わせ、宿題などの補助を行うために実施されているウィンタースクールで講師を務めた福島大学F-cationサークル「ホップ」に所属する大学生に向けて、只見中学生による新聞紙エコバッグ作り講座が行われました。

ウィンタースクール中、教えてもらう立場だった中学生たちが教える立場になり、始めは少し緊張している様子でしたが、大学生からの作り方の質問などに受け答えする内に緊張もほぐれ、和やかな講座となりました。



▲参加した大学生と一緒に記念撮影をしました

野球しようぜ！

大谷翔平選手から町内小学校にグローブが届く



▲大谷選手寄贈のグローブでキャッチボールをする子どもたち

メジャーリーグのプロ野球チームで活躍する大谷翔平選手の寄贈グローブが1月に只見町教育委員会に到着し、1月17日に町内3小学校に贈られました。

グローブは、各小学校それぞれに、右利き用2つ左利き用1つの計3つが届けられ、それぞれに大谷選手のサインが書かれています。また、合わせて大谷選手から「私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます」と手紙が添えられており、文末には児童に向けた「野球しようぜ」のメッセージがありました。

大谷選手、グローブのご寄贈ありがとうございました。大切に活用いたします。